

釈迦如来坐像

1811年に作られたとされるこの素晴らしい黄金の像は、仏教の創始者である仏陀釈迦牟尼の像である。仏陀は約2,500年前に悟りを得て、衆生を救うことを誓った。現在の像は645年に寄贈された初代から数えて5代目にあたる。右手を上げ、手のひらをこちら側に向けているが、これは施無畏印のかたちで、恐れを取り除くことを象徴している。左手は膝に置かれ、与願印のかたちをしている。これは願いを叶えることを象徴している。この両手のかたちで、釈迦牟尼の大いなる慈悲の心を表している。恐れを取り払い、すべての衆生の心に平静をもたらす。

寄せ木造りで、漆と金箔で仕上げているこの像は、中金堂の本尊である。また、興福寺伽藍全体の本尊でもある。比較的新しい製作だが、過去の像のスタイルやスケールを再現しており、興福寺という由緒ある寺院において適切なかたちで、他の仏像たちとも調和している。